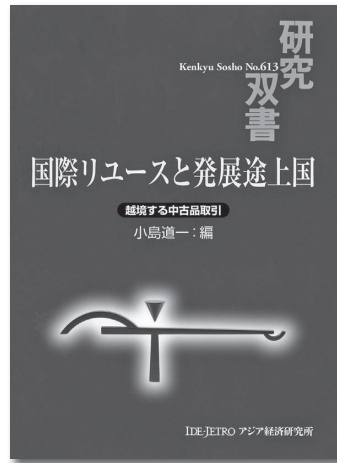


小島道一編

『国際リユースと発展途上国 ―越境する中古品取引―』

研究双書 No.613、アジア経済研究所 二〇一四年



近年、古着、中古家電、中古自動車、中古農業機械、中古建設機械などさまざまな中古品が日本から輸出されている。その多くは、発展途上国でリユース（再利用）されている。本書は、前記の品目を対象に、これらの中古品の貿易フロー、その貿易の担い手、中古品販売店の集積、中古品輸入の産業発展への影響、中古資本財の途上国経済における役割などについて、経済学、文化人類学、社会学、経済地理学などの観点から多角的に分析を行ったものである。アフリカと東南アジアがおもな対象地域となっている。

第一章「国際リユースと発展途上国（小島道一）では、リユース関連（リビルト、リファービッシュ、リマンなど）の用語を整理するとともに、国際リユース関連のさまざまな先行研究について紹介している。

第二章「リユース品貿易の実態―古着の国際貿易を事例に―」（福西隆弘）では、古着の輸出入規制の繊維産業に

与える影響を統計的に検討している。繊維産業は、低所得国であるが、低所得国ほど古着が輸入されており、古着の輸入により新品衣料品の生産が抑制されている可能性がある」と指摘している。

第三章「タンザニア市場における中古衣料品とアジア製衣料品の競合―トランス・ナショナルなインフォーマル取引の台頭に注目して―」（小川さやか）は、タンザニアの消費者が安価なアジア製の新品と古着を選択する際、どのような観点から商品の選択を行っているのかについて調査し、古着の消費および流通の特徴を明らかにしている。先進国から輸入された古着が、質の良いものであると評価される一方、流行に合っ形で品物を仕入れることができず、流行に敏感な消費者の思いに答えられないとしている。

第四章「中古車・中古部品の国際流通」（浅妻裕）は、中古自動車およびその部品の輸出入を取り上げ、日本からの輸出統計などをもとに、貿易台数

や輸出先国の変動について考察を行っている。

第五章「国際リユースとエスニック・ビジネス―中古車・中古部品貿易業における南アジア系移民企業家―」（福田友子）は、中古品の輸出入では、中古自動車の取引を担っているパキスタン人やアフガニスタン人のエスニック・ネットワークを取り上げ、担い手となった経緯、輸入規制の導入にどのように対応してビジネスを展開しているかといった点についてまとめている。

第六章「自動車中古部品の国際リユースと地域的集積―バンコクの市場を事例に―」（浅妻裕）は、バンコクで、中古自動車部品業者が集積している実態を明らかにするとともに、集積がなぜおこるかを検討している。部品の品ぞろえが豊富になることが中古自動車部品の買い手にとって重要であると指摘している。

第七章「中所得国における国際リユース―タイと周辺低所得国の諸相―」（佐々木創）は、タイ、カンボジア、ミャンマーでの中古家電や中古自動車の輸入統計や取引業者へのインタビュー等にもとづき、タイでは、輸入された中古品が使われる一方、タイで発生した中古品が、カンボジアやミャンマーでリユースされていること、最終的にミャンマーなどで野積みされていることを明らかにし、最終的に廃棄されている地域での、廃棄物の処理・処分体制の確立が必要と指摘している。

第八章「ベトナムの農業機械普及における中古機械の役割」（坂田正三）は、ベトナムの農業の機械化のなかでの輸入中古農業機械の果たしている役割について検討している。また、輸出国である日本と輸入国であるベトナムの農地の違いなどから、ベトナムの農地に合わせた農業機械の改造が行われていることも指摘している。

第九章「リマニユファクチャリング／再製造と国際貿易」（小島道一）では、越境移動をとまなうリマニユファクチャリング（再製造）について、自動車部品、IT機器などの事例を紹介するとともに、貿易規制の再製造に与える影響について検討している。

また、終章では、「国際リユースの背景」、「なぜ、エスニック・ネットワークが中古品貿易の担い手となっているのか、販売店の集積がおこるのか」、「国際リユースは途上国にとって有益か」、「グローバリゼーションの影響」、「中古品などの規制のあり方」の五つの論点について、各章の議論を踏まえ考察している。

本誌二〇一三年五月号に掲載されているフォトエッセイ「日本から輸出された中古製品」（写真・文 小島道一）もあわせてお読みいただければ幸いです。

（こじま みちかず／アジア経済研究所 環境・資源研究グループ）